

2010年8月27日 No.103

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL03-3434-1236 FAX03-3433-0334

URL: http://www.nugw.jp

全国一般全国協



全国協第20回定期大会を成功させよう

20年の主体的取り組みを基盤に、 更なる一歩を踏み出そう

来る9月11日ー12日、全国一般全国協議会第20回定期大会が東京蒲田で開催される。20年前、労働戦線再編成とりわけ中小労働運動の企業内組合化に抗して、全国一般全労協準備会の活動を発展させ新たな全国組織の建設をスタートした全国協は、19都府県、3全国単組の組織としてこの時代を組織化と争議を軸に闘い抜き20回大会を迎える。

いまや低賃金で雇用保障のない非正規労働者の比率が33・7%を占め、非正規労働者の無権利、生活破壊に同時平行で中小企業底辺の正規労働者の賃金労働条件への過重な抑制を生みつつ不安定雇用が全労働者を覆っている。この現状は、企業内労使の攻防と地域の闘いとこの結合だけで切り開くことは難しい。

雇用形態の差を克服する闘いを通じた社会的連帯を作り上げるのが焦眉の課題である。こうした全国協の闘いの現在の歴史的座標をしっかりと見据えた運動と

新たな激動期がやってきた。時代を 開く運動と体制を作り上げよう

ときあたかも、24年に亘って労働者の団結破壊、国家的不当労働行為と闘ってきた国鉄闘争が勝利的決着を勝ち取り、新たな闘いを開始する。譲れない権利を掲げ、闘いの継続で勝ち得たことの意義は大きい。この闘いをともにすることを運動と組織の軸にしてきた我々にも、新たな労働者の連帯と共同の闘いの構築が問われるときだ。

第20回 定期全国大会
 時/2010年9月11日(土)13時から
 12日(日)12時まで
 所/東京・大田区消費生活センター
 2F大集会室 TEL03-3736-7711
 (JR蒲田駅東口徒歩5分)

20年前、バブルの崩壊から一挙に雇用構造が崩壊し今に続く高失業時代に突入した。いままた、リーマン大不況への危機対策が、新たな国家財政の崩壊危機を生み出し失業と大増税、賃

組織の再構築が必要であり、この間の全国協の闘いの中にその萌芽は見て取れる。第20回定期大会の課題はその具体的展開の第一歩を記すことにある。

7/17・18

「活動家養成合宿」を開催 全国から20単組56人が参加!

全国一般全国協が主催する「労働組合をつくろう! 活動家養成合宿」が7月17、18の両日、東京・晴海の海員会館で開かれました。全国一般全国協にとって初めての試みでしたが、全国各地から傘下の20単組、56人が集まりました。平均年齢は43歳と、次世代の全国一般運動を担う活動家・組合員が参加しました。

参加者の声



合宿初日の模擬労働相談では、相談者が何を聞いて欲しいのか、どこに違法行為があるのか等、改めて相談の難しさと、相談者の立場から考えることの大切さを痛感しました。
現在起こっている労働問題は、氷山の一角にすぎません。声を上げたくても、どうしたら良いかわからない労働者が沢山います。問題があるのに目をそむけてしまう労働者もいます。「活動家養成合宿」のよう

困っている労働者の力に!

長野一般労組書記長・平谷哲治

合宿1日目は平賀副委員長による記念講演があり、長による記念講演があり、非正規労働者の組織化という全国一般運動の歴史的課題などを100分にわたって講演しました。その後、グループに分かれて模擬労働相談を実施。中執メンバーが演じる相談者役に対して、参加者は解雇や残業代未払いなどのケースに即して労働組合の結成や加入を熱心



遠藤書記長

な機会を通じて、労働者の権利を学び、問題を共有し、困っている労働者の力になっていかなければいけないと強く感じました。

今後は、職場支部のリーダー研修も!

きよつとユニオン書記次長・船場潤之

合宿の内容は講演と参加型の研修、そして交流でした。全国で闘う仲間と時間をともにする楽しさのため2日間の日程があつという間に過ぎ去りました。講演をされた平賀さんと



北野・元大鵬薬品労組委員長

北野さんのお話はどちらも深い経験に裏付けられた濃い内容でした。平賀さんのお話は、ひとつの地域に根付いて地道な取り組みを続けるうちにみいだされる喜びをうったえていたように思います。北野さんのお話からは、労働運動が一企業という枠をはるかに超え、社会的な広がりをもちうることを学びました。

参加型の研修として模擬労働相談を行いました。相談の方法を共有する上で

一緒に考える難しさを、思い知る

全芝浦屠場労組・松下公和

長引く不況の中、私たちの労働を取り巻く環境は、厳しさを増すばかりです。また、団塊の世代も退職の時期を向かえ、世代交代の波が押し寄せています。次世代を担う若手の為の活動家養成合宿があると聞き、私を含め4名の若手組合員で参加させていただきまし

た。平賀副委員長の記念講演はとても有意義なものでし

た。2日目、大鵬薬品労組前委員長である北野さんの講演では、労働組合発足のきっかけになった事件の話、過



去の闘争の話など、とても興味深く勉強になりました。今後も、このような催しに参加し、自分たちの職場をより良くしていけるように頑張りたいです。

有益な試みだと思えます。このやり方を各地域に持ち帰って活動家の養成のために役立てることができるとしよう。
さて、今回の合宿には職場支部の若手リーダーたちも多く参加しておられましたが、こつこつと方々にとつてかならずしも労働相談が日常的な活動となるわけではなくと思われれます。今後は職場リーダーの活動に対応した研修もメニューに取り入れる必要があると思えます。今後も継続を希望します。

過労死をなくそう！龍基金

「第4回中島賞授賞式」開催

「過労死をなくそう！龍基金」は8月1日、第4回中島賞授賞式を東京・葛飾で開催し、過労死を出した企業名の公表を求めて国を提訴した寺西笑子さんを表彰しました。

日弁連会長の宇都宮健児、弁護士らの記念講演もあり、会場には満員の1300人が集まりました。



トラック労働者の生存権を闘いよう！

洛南ユニオン 物流システム分会 & 平安分会

8月20日、「物流システム&平安勝利決起集会」を開催した。

8月31日で営業所の閉鎖を通告されている物流システム分会では、2日前の団体交渉に初めて社長の出席を実現し、労働者の怒りを直接ぶつけるところから、交渉が進み始めた。

平安では、不当な配転により賃金は半分以下。持病のある組合員が酷暑職場で働かされている。酷暑対策と配転の撤回要求に、会社は「嫌ならいてもらわなくていい」と開き直っている。法律無視、人命軽視のブラック企業！平安を許さない！



最低賃金、あと2ヶ年で全国最低800円に！ 中小零細労働者組織化の要の闘いだ

8月6日に中央最低賃金審議会において地方審議の目安となる答申がなされた。今年度の引き上げ額は、AからDまでのすべてのランクで10円引き上げ、生活保護基準との乖離がある県はその解消を優先し、乖離額を解消予定年数で割った金額か、それが地域の経済や雇用に大きな影響を及ぼす

場合は、差額を「解消予定年数+1年」で割った金額とされた。全国加重平均では平均15円の引き上げとなる。

「雇用戦略対話」による「できる限り早期に全国800円を確保し、景気状況に配慮しつつ全国平均1000円をめざす」にもとづき本年からの引き上げを求める労働側と、使用者側の合意の前提となる「名目3%、実質2%を上回る経済成長」の未達成を口実にして、今年度の引き上げに反対する使用者側との攻防で、

長期化し、最終的には前述の内容での公益委員案で答申がまとめられた。

いるという状況となっている。最大多数ではないが最低賃金の影響をうける労働者が地方を中心にして増大している。これらのことを踏まえれば労働側が主張する3年で全国800円の実現は意義ある闘いだ。あと2年で全国800円を実現し、最低賃金の影響下にある労働者を拡大し、最賃闘争の担い手を確保していくことは、中小零細の低賃金労働者の組織化を進める全国協にとっては重要な闘いである。(洛南ユニオン・田村副委員長)

信州大学 小山教授への不当解雇は許さない！

長野一般労組

信州大学は、同医学部の小山教授に対し、7月21日付で「国立大学法人信州大学職員就業規則規定により懲戒処分として懲戒解雇とする」という「懲戒処分書」を7月22日に通知しました。「懲戒処分書」の処分理

由には、「ハラスメント行為」として7年前の被害届も出されていない行為を対象にしたり、組合の主催で開催した「4月27日の市民集会」での発言内容や、新聞の取材に応答しその内容が記事として記載された事

を名誉毀損にあたる等としたもので、小山教授を何としても解雇し、それを正当化しようとする「あら探し」そのものです。

長野一般労組は、大学に対して不当極まりない懲戒処分の撤回、表現の自由を保障した憲法をも否定するやり方に、強く抗議し闘っていきます。

8・5

驚くべき空室買い取りの実態

第2回団交 東横イン労組

8月5日、新大阪丸ビルにて第2回団体交渉が行われました。参加者は、経営側は前回と同じく黒田副社長など5人。組合側は、山原全国一般全国協副委員長、東横イン労組の三田委員長と今回初めて参加の富山・徳島のフロント3人をふくめ、全体8人が参加しました。



まず組合側から、現場の状況を切々と訴えた実態調査を突きつけ、三田委員長は「きちんと調査をするという約束で待ったが、いわば犯人からの意見しか聞い

ました。「本社として報告を受けたが、その後どのようになつたのかは、今わかりません」、「お金に関しては返金することになると思います」など不誠実な回答に終始しました。はるばる

大阪までかけつけた徳島の組合員は「時間がかかりすぎていて、本社主導で改善をお願いしたい」、富山の組合員は「全国の問題を知れて良かった」と感想を述べています。

一〇四七名解雇撤回・国鉄闘争

24年間の長期闘争、勝利和解かちとる！

1987年、国鉄の分割民営化によって解雇され、JRに不採用となつた国労組合員など1047名の闘いは6月、鉄建公団との間で和解が成立した。4者4団体は政府の責任で「雇用・年金・解決金」の解決を求めて交渉を重ねてきたが、

昨年の政権交代によって鳩山政権が誕生し、事態は大きく前進、「政治解決の扉が開かれた。今後はJRなどへ200名程度の雇用確保を求める課題が残ることになった。引き続き支援連帯行動に取り組むことになる。当時の中曽根内閣は国労

解体↓総評解体↓社会党解雇という大きな政治目標の下に、国鉄を解体し、JRという会社に分割民営化するという手法をとった攻撃であった。国による組合つぶし―国家的不当労働行為であった。一方、当時、世界は新自由主義が台頭し、

7・14

工場閉鎖撤回求めて セブンズクリーナー分会が半日スト

東京東部労組デイベンロイ労組支部

デイベンロイリネンサプライ本社工場（東京都大田区）の閉鎖をめぐる闘いは、子会社セブンズクリーナーの工場閉鎖問題も含めて、様々な動きが出ています。デイベンロイ労組支部は一方的な閉鎖計画からんで、会社に団体交渉での約束を守らせ「組合つぶし」をやめさせるために、7月6日には東京都労働委員会に不当労働行為救済を申し立てました。

また、7月14日にはセブンズクリーナー三郷工場（埼玉県三郷市）で働いているデイベンロイ労組支部

セブンズクリーナー分会のパート労働者が工場閉鎖に反対する半日のストライキを決行しました。工場前には東部労組の他支部や友好労組の仲間ら約70人が集まりました。分会組合員からは会社の非道と理不尽が次々と明らかになりました。その光景をビデオカメラで撮影していた会社役員に参加者の怒りが集



市場原理主義によって資本主義経済の復興を図ること、そして、その障害である労働組合への攻撃・無力化を進めてきた。サッチャー（炭労解体）・レーガン（管制官スト弾圧）・中曽根（国労解体）と並べられた労働組合解体攻撃であった。そして、国鉄民営化方式は

会社清算―全員解雇―選別再雇用という一連の流れによる活動家排除・組合つぶしのパターンを経営者に呈示したのである。

心ある労働者・労働組合は国鉄闘争勝利のために支援連帯に駆けつけた。労線再編に反対して結成された全労協は最大の闘いと位置付けて全国で闘ってきた。全国一般全国協も連帯ストを配置して闘いに連帯してきた。24年間の長期闘争を解決に導いた当該や国労、支援団体の頑張り敬意を表したい。闘いは多くの総括すべき成果と課題が残されている。今後の闘いに生かしていきたい。